



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中級学習者の会話におけるコミュニケーション能力について : 初級学習者と中級学習者のロールプレイの比較を通して
Author(s)	石島, 満沙子; Ishijima, Masako; 中川, 道子 他
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 1, 107-127
Issue Date	1997-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45553
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC001_008.pdf



中級学習者の会話における コミュニケーション能力について

—初級学習者と中級学習者のロールプレイの比較を通して—

石島 満沙子・中川 道子

要 旨

本稿では初級学習者と中級学習者の行なったロールプレイを比較分析することによって、両者の会話におけるコミュニケーション能力の違いを見た。両者の誤用を①コミュニケーション不成立②不適切な表現③文法の誤り④語彙の誤りに分類し、比較分析した結果、注目すべきことは初級学習者に表れたコミュニケーション不成立が中級学習者には全く見られなかったことである。そこでその要因を明らかにするために中級学習者の会話を Canale & Swain の言う4つのコミュニケーション能力(文法能力、社会言語学的能力、談話能力、ストラテジー能力)に照らし合わせてみた。その結果中級学習者は色々なコミュニケーション能力やストラテジーを持ち、それらを効果的に用いて会話を円滑に進め、コミュニケーション不成立を回避しているということが分かった。

〔キーワード〕 コミュニケーション能力、社会言語学的能力、談話の流れ、ストラテジー、モニター能力

1. はじめに

初級学習者と中級学習者の会話におけるコミュニケーション能力の差異とはなんだろうか。北海道大学留学生センターで開講している「全学日本語」(本稿3. ロールプレイの概要参照)の中級口頭表現クラス1. 2. 3 (数が多い程レベルが高い)のうち、1のレベルでは日常会話能力習得のために次のような学習目標を挙げている。①初級で学んだ日本語を実際の場面で使えるようにする(お礼や苦情の言い方、依頼や断り方等の機能表現を学ぶ)。②相手によって使う言葉を選択できるようにする。③人間関係をそこなわずに目的を達することができるようにする。基礎的な機能

表現や相手によって使う語彙・表現の選択などは、北海道大学初級レベルでも指導されているが、具体的に初級レベルと中級レベルとではどこが違うのだろうか。「誘う」と「期限の延期依頼」というロールを与えられた初級学習者（既習者）と中級学習者がどのようにその課題を完成させたかを比較することによって両者の会話におけるコミュニケーション能力の差異を明らかにしてみたい。

そこで本稿ではまず先行研究から言語能力における会話の位置付けと会話による「コミュニケーション能力」の定義を明らかにしておく。

2. 先行研究

「誘う」と「期限の延期依頼」のロールプレイを行なった初級学習者と中級学習者の比較分析をするまえに、会話が総合的言語能力の中でどのように位置付けされているかを、先行研究を通して調べてみる。さらに会話の特徴とコミュニケーション能力の定義及びそのスキルに関する先行研究にも触れておく。

2.1 言語能力と会話能力

言語能力について谷口（1989）¹⁾はCummins（1984）²⁾とBloom & Krathwhol（1977）³⁾を参考にした吉田（1988）⁴⁾を引用している。それらを要約してみる。

Cummins によると言語能力は図1のような枠組みをもっている。

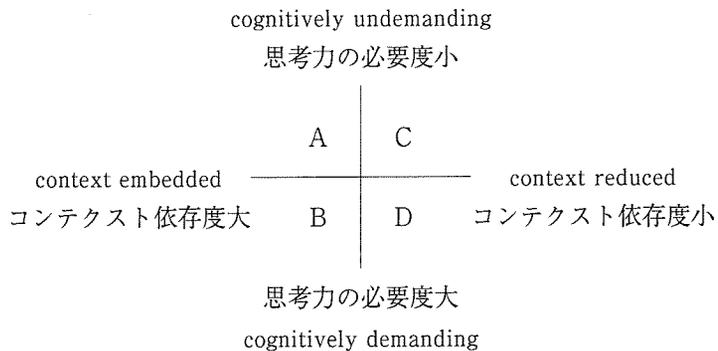


図1

縦の線は思考の必要度を表し、横の線はコンテキストへの依存度を表し

ている。吉田はある決まったフレームの中で行なわれる会話や、より自由で対人関係を円滑に運ぶことに重点を置いた「いわゆる会話」はAの領域に入るとし、音声・語彙・文法等の言語要素の訓練は思考力もコンテキストの依存度も少ないのでCの領域に入るとした。またBの領域には論理的な思考や議論の仕方を必要とする討議等が、Dの領域には知的内容に主眼を置いた思考的な作業としての読解、文章表現等が入ると述べている。

思考力の必要度が小さくコンテキストへの依存度が大きい領域Aに入る「会話」の特徴について谷口は、①話し言葉、つまり音声言語である、②処理産出がリアルタイムで行なわれる、③予測不可能な要素が多い、④話者と聴者の役割は固定しておらず、絶えず入れ代わるものと考えている。さらに会話に必要な能力として Breen & Candlin (1980)⁵⁾ が挙げた3つの能力「解釈 (interpretation)」「表現 (expression)」「交渉 (negotiation)」を示し、特に「交渉」の要素(参加者が共通理解のもと共同で会話を続行する能力)が谷口の言う「会話の特徴②③④」と大きく関連がある事を示唆している。

2.2 コミュニケーション能力 (communicative competence)

コミュニケーション及びコミュニケーション能力についてレベッカ・L・オックスフォードは著書「言語学習ストラテジー」の中で以下のように述べている。

「コミュニケーションとは2人、またはそれ以上の人が協力し合い共通性を見い出し築き上げる相互交換と定義される。コミュニケーション能力はコミュニケーションをするための能力あるいは才能であり、4言語技能全体にかかわるものである。次にコミュニケーション能力の定義として包括的で、非常に役に立つ1つとして Canale & Swain の提唱した4つの要素をあげる。

(1) Gramatical Competence : 文法能力

音声・文字・語彙や文法に関する正確な能力

(2) Sociolinguistic Competence : 社会言語学的能力

社会的な場面(人間関係も含めて)で適切な表現ができる能力

(3) Discourse Competence : 談話能力

コミュニケーションの場で連続して言われた2つ以上の文の意味的な繋がりを読み取り談話の流れをすすめる能力

(4) Strategic Competence : ストラテジー能力

あいづちや問い返し等のストラテジーを使って会話を円滑に進める能力」

2.3 会話のスキル

リアルタイムで処理、産出が行なわれ、予測不可能な要素が多い会話はどのようなスキルを用いて続行されているのであろうか。谷口は以下のように分類している。

(1) 会話の流れを作る (ディスコース)

①呼びかける、②話しかける、③話始める、④話を続ける、⑤話を切り上げる、⑥自分が話す番 (turn) をとる、⑦話す番を維持する、⑧話す番を相手に渡す、⑨話に割込む、⑩話題を変える、⑪話の方向を暗示する暗号 (せっかくですが等)、⑫話の流れをコントロール (脇道にそれる、元に戻す)、⑬本題に入る前の下地作り、⑭情報提示の順序、⑮一人である程度まとまった話をする時の構成

(2) コミュニケーション能力の不足を補うためのストラテジー

①聴解のストラテジー (問い返し等、相手の発話を自分に理解可能なインプットに変える)、②発話のストラテジー (身振り等、自分の発話を相手に理解可能なインプットに変える)、③相手に聞き返された時、修復する、④自分/相手の理解の確認

(3) 対人関係を調整する (社会言語的能力)

①相手との距離を調節する (待遇表現)、②表現を和らげる、間接的に表現する、③会話を楽しくする

(4) 良い聞き手になる (attending skill)

①あいづち、②応答の仕方、受け、③相手の意図を正しく推測する、④相手から話を引出す

(5) 相手に働きかける

①ほめかす、②説得する、③自分の心的態度を効果的に伝える

(6) 自分の発話を調整する

①いいよども、②時間稼ぎ (フィラーの使用等)

(7) 話をモニターする

①話の訂正・修正 (自分/相手の話を)

(8) 内容

①話題の選択

(9)音声面のコントロール

①速度・強さ・間・調音の丁寧さ・イントネーション・プロミネンス

(10)非言語行動

(11)文化的背景についての知識

3. ロールプレイの概要

北海道大学留学生センターには予備教育研修コース(6か月)と日本語・日本文化研修コース(1年間)と全学向けの全学日本語コース(6か月)がある。予備教育研修コースには未習者クラスA・Bと既習者クラスC(既習者に対して行なったプレースメントテストにより該当する上位者をCクラスに配属する)がありコース修了後、「全学日本語」で日本語学習を続けることができる。「全学日本語」は初級・中級に分かれ、中級では文法、口頭表現、読解、文章表現の技能別クラスがあり、それぞれ3レベルに分かれている。漢字は初級レベルからも受講できる。

「誘い」と「期限の延期依頼」のロールプレイを行なった初級学習者は1995年4月～9月と1995年10月～1996年3月の2コースに在席した北海道大学留学生センターの予備教育研修コースCクラスの留学生(既習者)9名のうちの5名である。自己申告による自国での日本語学習歴は8週間～1年半で、コース始業時の滞日年数は数日～1年前後である。中級学習者は1997年4月期の同センターの全学日本語口頭表現3を履修した留学生12名である。学習歴は約2年～10年で、滞日年数は4か月～3年前後である。全学日本語では履修者全員にプレースメントテスト(スポット、文法、漢字)を行いクラス分けの参考にしている。今回の口頭表現3の文法テストの平均点は83.3(口頭表現2:68.7, 口頭表現1:63.2)であった。

以下に「誘い」と「期限の延期依頼」のロールプレイの概要を示す。

初 級

予備教育研修コース(6か月)では3回テストを行なうが、これはコース開始2か月半後に第2回目のインタビューテストとして行なわれたもの。会話授業の中で「誘

中 級

コース開始2週間後機能表現を含む中級口頭表現1、2レベルの能力を計るために行なわれたもの。4人が1グループとなり2組のペアを作る。一方のペアが「誘い、

い」と「期限の延期依頼」のモデル文を与え、用件の切り出し、内容提示、切り上げの談話スタイルをすでに学習している。ビデオカメラで録画。

①誘う

A：友達（学習者）

B：友達（教師が担当）

Aはコンサートの招待券を2枚持っています。友達Bを誘ってください。待ち合わせ場所と時間を決めてください。

クラシックコンサート ◇北大オーケストラ◇	招 待 券
日時：7月1日PM6:00~8:00	
場所：市民会館 北1西3 (大通り駅の近く)	

②期限の延期依頼

A：学生（学習者）

B：先生（教師担当）

学生Aは大学院の試験のため忙しいので宿題提出日に間に合いません。期限を延ばしてほしいと先生Bに頼んでください。

他方が「延期依頼」を行なう。各グループに1台のテープレコーダーを置いて録音したのでペア間及び、グループ間の影響はない。

①誘う

A：友達（学習者）

B：友達（学習者）

Aは映画の招待券を2枚持っています。友達Bを誘って、待ち合わせの日時、場所を決めてください。Bは映画を誘われます。内容をよく聞いてから最後は一緒に行く約束をしてください。

"Shall we dance?"	招 待 券
日時：5月17日（土） PM 6:00~8:00	
場所：市民会館 北1西3 (大通り公園テレビタワー近く)	

②期限の延期依頼

A：友達（学習者）

B：友達（学習者）

Aは友達Bに本を借りていますがまだ全部読んでいません。いつまで借りることができるか頼んでください。返す日を決めてください。Bは友達Aに本を貸しています。早く返してもらいたいので話し合っ返してもらう日を決めてください。

4. 初級学習者と中級学習者の誤用の比較

上記の4つのロールプレイに見られた初級学習者5名と中級学習者12名の誤用を、『北海道大学留学生センター年報第5号』「既習初級者の口頭表現にみられる誤用」(1996、中川・石島)での分類方法を基として分類した。今回はその文法項目に「その他」を加え、指示語等の誤用を入れた。

表1 初級学習者の誤用

	A	B	C	D	E	合計	
① コミュニ不成立	2	1				3	
② 不適切表現		1	2		9	12	
文法 ③ 助詞	2	1	1	1	4	9	
④ 動詞		1	2	1	2	6	
⑤ 接続		1	1	1	4	7	
⑥ 条件			2			2	
⑦ ムード			1			1	
⑧ 構文	2	2			2	6	
⑨ その他			1		1	2	
⑩ 語彙・発音	5		2		5	12	
国籍	A:インドネシア B:カナダ D:韓国 C, E:中国					合計	60

表2 中級学習者の誤用

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	合
①													0
②	3		1		2	2	1		2	1	1	1	14
③	1	1	1		1	1	1	1	1	6	3	1	18
④		1	1							1	1		4
⑤				1	1			1					3
⑥		1	2										3
⑦													0
⑧	2	2	4				3	2			1		14
⑨			1	1		1				2	1		6
⑩	3	4		2	10	1	5	1	1	1	1		29
国籍	a:ウズベキスタン b,c,d,f,j,k,l:中国 e,g,i:韓国 h:カナダ											合	91

A～Eは初級学習者をa～lは中級学習者を表している。

4.1 コミュニケーションの不成立

この誤用は初級学習者3例に対し、中級学習者では全く見られなかった。

なぜ初級レベルでコミュニケーションの不成立が起こったのか本稿2.2で示した Canale & Swain の4つの能力（文法能力、社会言語学的能力、談話能力、ストラテジー能力）に照らし両者を比較してみる。

その3例は以下である。

* T : 教師, S : 学習者, ~ : 省略, …… : 言いよどみまたは発話なし

例1) 「コンサートに誘う」

T (友達) : Aさん(コンサート)にいくんですか。

SA (友達) : あの…チケットは2まいありますので。きっぷは2まいありますので…ふたりはいっしょにいきませんか。

例2) 「コンサートに誘う」

SA (友達) : ええと、みなみぐちの3ばんです。

T (友達) : みなみぐちの3ばん。かいだんのしたですか、うえですか。

SA : かいだんのみなみぐちのまえ、まち、まっています。

例3) 「コンサートに誘う」

T (友達) : オーケストラはどこですか。

SB (友達) : それはしみんかいかんです。

これらの誤用を前述の Canale & Swain の提唱するコミュニケーション能力の4つの定義から分析してみる。例1) の場合は会話が自然な速さで行なわれていればコミュニケーションが成立する応答であるがSAの口調が遅いため後文「ふたりは～。」との意味的な繋がりがすぐには感じられずTからの質問に対する返答として捉えにくかった。そのため「コミュニケーションの場で連続して言われた2文以上の文は意味的な繋がりがあ」とは考えにくく、ここでは談話能力の欠如と見做した。例2) はストラテジー能力の欠如、つまり相手の発話内容がわからない時の問い返しの技能の欠如と思われる。例3) は学習者SBは場所をきく時の「どこ」しか知らないので、4つの能力のうちの語彙も発音も含めた文法能力の欠如と思われる。

これに対し、誤用0の中級学習者はどのような能力を用いてコミュニケーションを成立をさせているのであろうか。具体例を挙げて彼らのコミュニケーション能力を同様に Canale & Swain の4つの能力に照らして明ら

かにしてみたい。

(1) Grammatical Competence (文法能力)

例4) 「映画に誘う」

Sg (友達) : ~ このごろほんとにわかものたちにさかんでいる ~

Sh (友達) : ああ、なぜにんきですか。

Sg : わたしもよくしらないですけど ~ ほんとににんきがある…。

Sgが「さかんでいる」と間違った語彙を用いたことを受けて、Shはそれが「にんき」との混同だとすぐ気づき「なぜ、にんきですか」と訂正して質問している。さらに、それを聞いたSgは「にんきがある」と正しい表現に直している。つまり、SgもShも相手の誤用に気づき合う文法能力を持っている。

(2) Sociolinguistic Competence (社会言語学的能力)

例5) 「映画に誘う」

① Sa (友達) : いっしょにいきたいです。ぜひ…。

Sb (友達) : ああ、ざんねんだけど、それもうみましたよ。

② Sd (友達) : じゃ、いきましようか。

Sc (友達) : そうですか。あ、うれしい。

③ Sh (友達) : たのしみにまっています。

Sg (友達) : はい、ありがとうございます。

これらの表現は初級学習者のロールプレイには見られなかったものである。中級学習者は相手への思いやりや自分の素直な感情を表現することにより、双方の社会的関係を円滑にしていると思われる。

(3) Discourse Competence (談話能力)

例6) 「期限の延期の依頼」 * Si, Sj は友達同士

Sj (貸主) : じゃ、こんしゅうのどようびなんじごろですか…。なんじごろかえて…。

Si (借主) : どようびはがっこうにくるんですか。

Sj : どようびはあのこないけど、でも、もし、あの…。がっこうのどこでも (どこかで) まって (まち) あわせましょう。

Sjの「(本を) なんじごろかえて (くれるんですか)」という問いに対し、Siはそれに答えず「どようびはがっこうにくるんですか」と新た

な質問をしている。この連続する2人の会話は一見意味的な関係がないように思われるが、SjはSiの「学校で本を返したい」という発話意図をくみとり「もし、本を返してくれるなら学校のどこかで会いましょう」と適切な対応をしている。このように中級学習者の場合は相手の発話の行間を補って解釈する談話能力が備わっていると言えよう。

(4) Strategic Competence (ストラテジー能力)

例7)「映画に誘う」

① Sg (友達) : クラークかいかんのてんわボックスまであいましょうか。

Sh (友達) : てんわボックス (ノ) …なにそれ。

Sg : でんわ…。

Sh : ああ、そうですか。

② Se (友達) : コールデンウィーク、コールデンウィーク。

Sf (友達) : うん… (ノ)。

Se : コールデンウィークというんでしょ。れんきゅう。

Sf : ああ、れんきゅう (ハ)。あ、ゴールデンウィーク。

例7)-①ではSgの発音「てんわボックス」が理解できなかった時にShは問い返しを行なって会話を進めた。また例7)-②の場合は「ゴールデンウィーク」が分からないSfに対し、Seが「れんきゅう」と置き換えることで理解させることができた例である。これらの例からも中級学習者が相手の発話内容が理解できない時や自分の発話が理解されなかった場合に問い返しや言い直しのストラテジーを用いて円滑な会話を続けていく様子が窺える。

4.2 不適切な表現

初級学習者の不適切な表現と思われるものは全部で12あった。その中でロールプレイの相手の役割が教師であるため待遇表現に関するものが7と多く、「です」「ます」の欠落や丁寧さに欠く語彙(無理、だめ)が見られた。

次に中級学習者の例は14あったが、その例をいくつか挙げてみる。

例8)「映画に誘う」

Sa : …なにかよていがありますか。

Sb : よていがあるけどなにかごようがありますか。

Sa : やあ、あるよ。

これは丁寧体が急に普通体が変わった例で、初級者には全く見られなかったものである。他の中級学習者も普通体は用いているが、ほとんどが独白の形で発話されていて丁寧体と普通体の使い分けができていた。これに対し Sa は例 1 の相手への応答や相手の発話への確認（「そうですね」といふべきところを「そうだろ」）に普通体を使って、全体的には丁寧体で行われている会話の流れに違和感を与えている。

例 9) 「借りた本の延期依頼」

① Sj (貸主) : …どのくらいじかんのほうはかかるんですか。

Si (借主) : たぶん、みっかよっかかかるんじゃないんですか。

② Si : こんしゅういっぱいまで、うーん、かえすようにします。

Sj : …でもできるだけはやくかえしたほうがいいとおもうけど。

Si、Sj ともに自分の意思に関わる事柄を他人の行為のように客観的に表現していて、不自然さを感じさせる。

例 10) 「映画に誘う」

Se : ふたりがあつていくようにしましょう。

Sf : はい、わかりました。たのしみにおまちしております。

Se の場合、「ふたり」は自分を入れない客観的な視点からの語彙であり、後続の「いくようにしましょう」は自分を含む行為の提案なので、全体としては整合性のない文になっている。

Sf の「おまちしております」の不自然さは、「待つ」の対象として「二人で映画に行くこと」と捉えれば、謙讓表現の対象に自分が含まれていることから来るものであろう。又、「自分が映画に行くこと」と考えれば「楽しみに待つ」という行為に相手が含まれず、又、行為からの被恩恵者もないからと思われる。

以上の例をみると、中級学習者は初級学習者が使用しなかった様々な表現を用いているのが分かるが、中級学習者の不適切な表現はその豊富になった表現に起因しているとも言えそうである。

4.3 文法

ここでの文法は Canale & Swain の 4 つのコミュニケーション能力における文法のことではなく、誤用分類表(1)の③から⑨までを言う。

(1) 助詞

助詞の誤用は初級学習者 5 人で 9 (1 人平均 1.8)、中級学習者が 12 人

で18（1人平均 1.5）と、その1人当たりの平均数はほぼ同じだった。初級学習者、中級学習者とも「ガ」、「ハ」、「ヲ」、場所の助詞「ニ」「デ」に関係した誤用がみられた。下に例文を挙げる。

例11) 初級学習者と中級学習者の誤用例

- ① SA：いま、だいたいじゅんびががしているんですけど…。
- ② SB：…ドアのまえに（会いましょう）。
- ③ Sa：どこかに会いましょう。
- ④ Sc：ぼくがいそがしいんで…。
- ⑤ Si：ゼミをつかっているほん。

中級学習者だけに現れた特徴的な誤用は時名詞につく助詞「ニ」の欠落で、4人の学習者の発話にあった。これは中間言語の主な要因の一つである「コミュニケーション重視による文法規則の無視」によるものであろうか。

例12) 中級学習者の助詞「に」の欠落例

- ① Sg：よんじゅつぶんぐらい（に）あって…。
- ② Sh：ごじはん（に）しましょうか。
- ③ Si：じゅうにじ（に）しましょう。
- ④ SJ：ひるごはんのとき（に）しましょう。

(2) 動詞

初級学習者の6の誤用のうち、3例はアスペクトに関わるもので、他は自己動詞の混同、て形の誤り、可能形の誤りが各1例見られた。

例13) 初級学習者の例

- ① SB：じゅうしょもかいています。
- ② SD：じゅんびがしています。
- ③ SE：～せんせいのけんきゅうしつのボックスに（宿題を）はいって、
～。

中級学習者は4の誤用の内、可能形に関するもの2、アスペクトに関するもの2であった。

例14) 中級学習者の例

- ① Sj：いつごろおわれますか。
- ② Sk：まだよんでしまわないんですが。

(3) 接続詞、接続助詞

初級学習者の場合は順接「だから」、逆接「でも」、並列「そして」の基

本的な用法の誤り（3例）と、動詞て形での接続の誤り（2例）、接続助詞の誤り（2例）があった。

例15) 初級学習者の例

① SB は T (友達) をコンサートに誘う

T : クラシックコンサート?

SB : ええ。わたしはそのおんがくが大好きです。でもにまいもってくれました。(切符を二枚の意味)

② SD は T に宿題の延期を頼む

T : じゃ10じにインタビューのしけんがおわってから、そのあとかくことはできませんか。

SD : あー。いまかんがえてかけないとおもいます。

③ SE は T に宿題の延期を頼む

T : 3じはわたしはもうけんきゅうしつにいません。1じまでにもってきてください。

SE : はい。けんきゅうしつにいらっしゃいませんからだいじょうぶ。

一方、中級学習者の誤用は転換の接続詞「それじゃ」を使うべき箇所に順接の接続詞「すると」、「それで」を用いたもの（2例）と、累加の接続詞「また」の使い方であった。一人当たりの誤用数を比べてみると初級学習者の1.4に対し、中級学習者の誤用は0.25で、前者に比べてかなり少ないと言える。

例16) 中級学習者の例

Sg : (待ち合わせの時間を決めてからの発話) まちます。

Sh : はい、それでどうようびごじはん。

又、初級学習者と比べると、中級者の接続表現は豊かになり、「それで」、「じゃ」、「あるいは」等の接続詞や、「そうだったら」、「そしたら」、「それだったら」、「そうすると」等の連語接続表現がみられたこともつけ加えておきたい。

(4) 条件

初級学習者は条件文の定着が不十分なこともあってか、発話の中には条件の形が少なく、2例の誤りは同じ学生によるものであった。

例17) 初級学習者の例

SC : だいがくしけんおわったら (終わってからで) いいですか。

中級者の誤用は3例みられた。

例18) 中級学習者の例

① Sb : じゅうごふん だったらあわないときはかえますよ。

② Sc : どこでまちあわせて よろしいですか。

中級学習者の発話では、「よかったら～しませんか」、「もしじてんしゃでくれば」「～だったらどうですか」等の多様な条件の表現が適切に使われていて、(3)の接続表現の豊富さと合わせて、初級者との差異を感じさせた。

(5) ムード

ムードの誤用はロールプレイの内容(誘い、期限の延期依頼)からか中級学習者にはみられず、初級学習者にも1例にすぎなかった。

例19) SC : あしたまでかんじシートをださないようです。

(6) 構文

初級学習者の場合は動詞、な形容詞の接続の間違い、「ハ」文と「ガ」文の混同など6例であった。

例20) 初級学習者の例

① SE : かくのじゅんび…。

② SE : きれいとおもっていますから～。

③ SA : きたいちじょうにしさんちようめがばしょです。

中級学習者の誤用は14例と多かった。その内7例は動詞、な形容詞、い形容詞と後続語との接続の誤りで、4例は初級者にはみられなかった「のだ」文の誤りであった。接続形の誤りは学習者に気付きはあるのだが、積極的に直そうとする意思がみられず、化石化する可能性があると思われる。学習者本人の強い意識なしには改善は難しいであろう。「のだ」文については、「の」の過剰使用や必要な箇所での欠落がみられ、学習がまだ不十分なために起こっている誤用と思われる。さらに明確な用法の指導が必要であろう。

例21)-1 中級学習者の例

① Sa : おもしろいだとおもいます。

② Sc : じてんしゃのおりるのところ

③ Sg : ～とてもおもしろいだとききました。

④ Sh : くわしくにしりませんか。

例21)-2 中級学習者の「のだ」文の誤り

⑤ Sb : あわないんときは～。

⑥ Sh : どうしてにんき (なん) ですか。

⑦ Sb : はっきりおぼえてない (ん) だけど～。

(7) その他

初級学習者は「それ」と「これ」の混同があった。

例22) 「作文の期限の延期依頼」

T (教師) : ～ひとばんでかくことはできませんか。

SE (学生) : うむ。これはちょっとむずかしいです。

中級学習者による誤用は6例あり、「こ」と「そ」の指示詞の使い分け、「まだ」と「もう」の使い分けの間違いも含まれていた。

例23) 中級学習者の例

① Sc : ウォークマンがかいたいですけど、どちらがいいかわからないです。

② Sd : このばしょはわたしもわかりますので～。

③ Sj : ～まだよみおわりました。

4.4 語彙・発音

初級学習者の誤りは12例みられたが、その内発音については5例で語彙の誤りは7例だった。

例24) 初級学習者の例

① SE : それでさくぶんのださ (出すの意) きげんをのぼしてほしいんですが。

② SA : えーと、しがつ、しがつ (七月の意) のこんしゅうの～。

③ SA : ～まちあわせのところはどうですか。

④ SE : さくぶんのないようもかたちもきれいとおもいますから～。

中級学習者 (中国7人、韓国3人、ウズベキスタン1人、カナダ1人) の誤りは全部で29あり、その内発音の誤りは21、語彙の誤りは8であった。発音に関しては19例が中国と韓国の学習者によるもので、韓国学習者には語頭の有声破裂音 / b, d, g / が無声破裂音 / p, t, k / になる誤りが目立ち、中国学習者にはモーラや拗音に関するものが見られた。

例25) 中級学習者の例

① Sa : ～えいがかんのおおきいばめんとくらべると～。

② Sb : じゅうごぶんまったらあわないときは～。

③ Se : ばしょはしみんかいかんです。

- ④ Sg : クラークかいかんのてんわボックス。
- ⑤ Se : とようび、こじよんじゅっぶんぐらい〜。
- ⑥ Sd : 〜ばしゃうはどこですか。
- ⑦ SB : としゅかんも〜。

5. 中級学習者の特徴

中級学習者の第一の特徴は4. 1にも述べたように Canale & Swain の言う4つのコミュニケーション能力を持っていることである。本稿の4. 1ではふれなかった他の能力についてさらに検討してみる。

5.1 談話の流れ

中級学習者のロールプレイの会話を分析してみると談話の流れはスムーズで、彼らは「誘い」と「依頼」の談話スタイル(開始、展開、終結)を習得していると思われる。彼等はロールカードを見た時にどのような談話を進めていけばよいのかの認識ができていと言えよう。その流れは次のようであった。

[映画に誘う]	[延期依頼]
①声をかける (誘い手)	①声をかける (借手)
②当日の予定をきく (誘い手)	②用件提示 (借手)
③映画に誘う (誘い手)	③延期依頼 (借手)
④映画の情報について聞く (受け手) 交渉	④理由の説明 (借手) 交渉
⑤待ち合わせの時間と場所を 決める。(双方)	⑤立場の表明 (貸手)
⑥約束の確認 (双方)	⑥返却期限と場所を 決める (双方)
⑦別れの挨拶	⑦約束の確認 (双方)
	⑧別れの挨拶

ここで注目したいのは2種類のロールプレイの談話の終わりに全組が「約束の確認」を行っていることである。このロールプレイは4組が同時に行っていることから他の組の模倣をするとは考えにくく、つまり各組が談話の流れを認識していたと言えるのではないだろうか。それに対して、初級学習者の場合は学生側からの「約束の確認」は全く見られなかった。

5.2 コミュニケーションを円滑にする能力

5.1で「誘い」と「延期依頼」の談話の流れを示したが、その両方の交渉の部分において中級学習者はさまざまなストラテジーを用いてコミュニケーションを円滑に進めていることがわかる。その中から特徴的なものを挙げてみる。

(1) モニターをする

初級学習者が上昇イントネーションを使っての問い返しに気付かないことがあったのに対し、中級学習者は自分や相手の発話（イントネーションを含む）をモニターし、正しく訂正することができる。

例26) 自分の発話をモニターする

① Sc : ちょっとつきあっ、ちょっとつきわって、つきあって くれない ですか。

② Sa : ああ、よかった。それも、それに、そう しましょう。

例27) 相手の発話をモニターする

① Sg : このごろほんとに、わかものたちに さかんでいる …。

Sh : ああ、なぜに んき ですか。

Sg : わたしもよく 知らない ですけど … ほんとに にんき がある。

(2) あいづち、言いよどみを使う

中級学習者はあいづち、いいよどみを効果的に使って、会話をとぎれなく進めている。

例28)

① Sb : ああ、ざんねん だけど、それもう みましたよ。

Sa : ああ、そうなん ですか。 もう みましたの。 いつ。

② Sl : ああ、それは、ええとええと ちょっと あのね、ううん。 むり …。

Sk : ああ、そう ですか。 Sl さんも つかいた かったん ですか。

③ Sf : なんじ ですか。

Se : ううん。 じかん は ごごろ くじ からは ちじま で。

(3) 予期せぬ展開に対応できる

与えられたロールを完成しようとしている時に相手からの予期しない発話に対し、柔軟に対処して話の流れをコントロールしていくことができる。次の例は映画に誘おうと思った相手に「すでに見た」という返事をもたらすからの会話である。Saは画面の大きさを問うことで、自分にとって有利な方向に展開させている。

例29) 「映画に誘う」

① Sa : ああ、テレビで。あちっちゃいテレビで。…。としょかんで
かりたビデオとえいがかんのおおきいばめん (画面の意) とく
らべるとどちらのほうがいいだとおもいますか。

Sb : ううんとやっぱりえいがのほうがそのほうがいいかな。

Sa : そうだろ。

下の例では待ち合わせの場所を決める時相手が不確かな反応をしたらず
ぐ相手の分かる場所にかえている。

例30) 「映画に誘う」

① Sh : クラークかいかんのでんわボックス (ノ)。

Sg : はいはい。

Sh : ああそうですか。むーん。みたことあるかな。

Sg : そうですね。そしたらクラークかいかんのほんやあるでしょう。

Sh : ほんや。そうですね。

Sg : ほんやのまえであいましょう。

6. 終わりに

Canale & Swain の4つのコミュニケーション能力と谷口の「会話の特徴とスキル」に照らし合わせて、初級学習者と中級学習者のロールプレイを比較、分析した。その結果は次のようにまとめられる。

中級学習者は Canale & Swain の4つのコミュニケーション能力において下記のような特徴が見られた。

(1) 文法能力：初級学習者に比べると平均1人当たりの誤用数は少なかった。特に接続詞、接続助詞の平均1人当たりの誤用数は初級者の約7分の1で、これは彼等の会話の円滑さの一要因となっているのではないだろうか。しかし、中間言語と思われるもの(「のだ」文、「イ形容詞+だ」)や、中国、韓国学習者の発音の問題もあり、これに関する教師側の適切な指導と学習者側の意識が必要なことも付け加えたい。

(2) 社会的言語能力：「残念ですが」「よかった」「楽しみにまっています」など、相手への思いやりや自分の素直な感情を表現していて、初級学習者に比べるといわゆる「交話的」な部分が多く、良い人間関係をつくっていた。「丁寧体」と「普通体」の不適切な混用も一部あったがほとんどは使い分けができていた。

(3) 談話能力：「誘い」「延期依頼」の全体の談話の流れが把握できていた。また、繋がりが無いように思われる談話の中で相手の発話意図をくみとり、会話を繋げていくことができた。

(4) ストラテジー能力：問い返し、あいづち、いいよども、モニターなどのさまざまなストラテジーを多用して、会話を円滑に進めていた。

以上のように中級上の学習者のロールプレイを分析することによって彼等が実際に用いている能力を明らかに示すことができたのではないだろうか。

本稿が北大の全学日本語の中級口頭表現クラスの会話教育に参考になれば幸いである。

注：

- 1) 谷口すみ子(1989)「会話教育のシラバス作りに向けて」『日本語教育』68号
- 2) Cummins J., (1984) *Bilingualism and Special Education: Issues in Assessment and Pedagogy*, Multilingual Matters LTD pp.136-39
- 3) Bloom and Krathwohl, (1997) *Taxonomy of Educational Objectives: Handbook I: Cognitive Domain*, Longman
- 4) 吉田研作(1988) JALT 全国大会 日本語教育に関するコロキウム発表原稿「語学授業における教育の役割 カリキュラム」
- 5) Breen & Candlin (1980) "The Essentials of a Communicative Curriculum in Language Teaching", *Applied Linguistics*, Vol. 1, No.2, pp89-112

参考文献：

- 大木隆二 (1994) 「中級教材の扱いとその周辺をめぐって」『九州大学留学生センター紀要』第6号
- 柏崎秀子 (1992) 「話しかけ行動の談話分析」『日本語教育』79号
- 東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会(1995)『日本語口頭発表と討論の技術』東海大学出版会
- 栃木由香 (1995) 「日本語中級学習者の話しことばのテキストの型」『日本語教育論集』第10号 筑波大学留学生センター
- 中川道子・石島満沙子 (1996) 「既習初級者の口頭表現にみられる誤用」

『北海道大学留学生センター年報』第5号

松畑熙一・和田勝明 『コミュニケーション能力の育成と評価』開隆堂
水田澄子・深尾百合子・向井淑子 (1993) 「A Course in Modern Japanese
vol. 1・2 「会話文」による場面・表現意図シラバス中心の会話教育の
試み」『名古屋大学日本語・日本文化論集』第1号 名古屋大学留学
生センター

レベッカ L オックスフォード著 宍戸通庸・伴紀子訳 (1994) 『言語
学習ストラテジー』(LANGUAGE LEARNING STRATEGIES) 凡人
社

Canale M. and Swain M., (1980) "Theoretical Bases of Communicative
Approaches to Second Language Teaching and Testing" *Applied
Linguistics 1* pp.1-47

A Study on Communication Competence in Japanese Conversation of Intermediate Learners

ISHIJIMA, Masako and NAKAGAWA, Michiko

In this paper, it became clear that there were the differences of the communication competence in Japanese conversation between beginners and intermediate learners. The conversations which were produced in the role-play conducted by two different levels (beginners and intermediate learners) were compared and analyzed. The analysis was carried out on the basis of "the four communication competence" (grammatical competence, sociolinguistic competence, discourse competence, strategic competence) advanced by Canale and Swain.

The results showed that intermediate learners had some distinguished competence which could not be appeared in beginners conversation.